

目次

- 2 **巻頭のことば**
上野理事長に聞く
- 4 **過去問に学ぶ**
慣用語にチャレンジ
- 6 **語彙をふやそう**
家屋・家具・寝具
- 8 **看图学慣用語**
絵で見る慣用語(1)
- 10 **紛らわしい文法表現**
“想”と“要”
- 12 **翻訳添削**
どこがおかしい？なぜおかしい？
——「日文中訳添削講座」から(22)
- 14 **新しいことばと古いことば**
現代版“土豪”とは？
- 15 **読者の広場**
『中国語の環』合冊本Ⅲ刊行に当たって
「中国語遊歩道」アイコンの改善を

発行 一般財団法人日本中国語検定協会

本誌掲載の記事、写真、イラスト等を無断で複製・
複写・転載することを禁じます。

上野理事長に聞く

聞き手：『中国語の環』編集室

——第1回の準1級二次試験（口頭試問）が無事終わりました。

昨秋11月の第81回から導入し、一次試験合格者を対象に年明けの1月12日に東京と大阪で実施しました。一次試験合格者73名のうち59名が受験（残りの14名の方は次回以降に保留）、なんと全員が好成績で合格されました。

——問題がやさしかったということでしょうか。

そうではありません。皆さんよくお出来になったのです。実は一次試験にも録音によるリスニング試験を課していますが、あの試験だけで本当の運用能力が測りきれているかどうか、多少の不安を懐いていたのです。

——不安は解消されたということですね。

そういうことです。疑ってすみませんでした。（笑）

——では、今後はもう二次試験を課する必要はないのでは？

そうではありません。たまたま今回は全員合格でしたが、今後やはり筆記試験は合格したが……、という方が絶対に現れないという保証はありません。

それに、受験者の方でも、ここまで努力に努力を重ねてようやく準1級までたどりついたので、一つネイティブの試験委員の前で実力を試してみたいという気持ちが強いでしょうから。先に一次試験のリスニング試験だけで実力を測りきれているかどうかの不安から二次試験を導入したと話しましたが、実はそれ以外に、と言うよりもそれ以上に、二次試験で自分の実力を試してみたいという受験者の声が強かったのです。

——二次試験があることが受験者にとって励みになっているということですね。

そうです。でも、いいことづくめではないのです。

——と言いますと。

いちばんの悩みは会場の問題です。今回は東京と大阪で実施しましたが、遠方の方にはたいへん不便をおかけしました。お金も時間もかかるし、中には仕事を休んでという方もいらっしゃいますから。

——地方にもいくつかの会場が用意されていたのでは？

仙台、名古屋、福岡を予定していましたが、いずれの会場も受験希望者が10名に満たなかったため、今回は実施できませんでした。

——海外での受験者もいらっしゃいますね。

そうなんです。国内の地方の方以上に深刻ですね。海外のすべての会場にとまてはいかなくても、せめて北京なり上海なりだけでも実施できないかと、鋭意検討を重ねているところです。

ネットを利用して受験することができないかも検討に値すると考えています。

——話は変わりますが、検定試験の受験者が減少傾向にあるようですが。

そうですね、最盛時に比べて2割ぐらい減ったのでしょうか。寂しいことですね。

やはり日中関係が大きく冷え込んでいることがいちばんの原因でしょうか、大学や高校での中国語履修者数も軒並みに落ち込んでいるようです。本人が履修しようとしても親が反対するなんて話も耳にします。

という次第で、準4級や4級の入門期の学習者を対象とした級の受験者は大きく減っていますが、上の級の減り方は小さく、逆に増えている級もあるくらいです。長年じっくり学習を続けてきた方は、そう簡単には動揺しないということですね。

——この先はどうなるのでしょうか。明るい日は戻ってくるのでしょうか。

戻ってきます。私は中国語の勉強を始めて50年以上になりますが、この間に明暗さまざまな時期を経験してきました。私は政治のことも経済のこともよくわかりませんが、中国が好きで、中国の歴史や文化を知るためにひたすらことばの勉強を続けてきました。

相手の国を理解する方法は一つにとどまりません。相手の国の言語を習得すること、その一つであり、とりわけ重要な意義もっています。一人でも多くの人が中国語の学習に志し、一人でも多くの人が正しい中国語を身に付けられることを願ってやみません。真の友好はそこから生まれてくると信じて疑いません。

——中国語ネイティブの人で中検を受ける人が増えているようですね。

そうですね。特に準1級や1級の受験者が年々増えてきています。

この前の準1級二次試験受験者の中にもかなりの数のネイティブの方がいらっしゃいましたし、1級に至っては合格者の大半がネイティブの方です。

——もともとよくお出来になる方が、どうして試験をお受けになるのでしょうか。

私も不思議に思って、何人もの人に聞いてみたのです。答えは一律に仕事を探すのに有利だと言うのです。なぜ有利かと言いますと、日本語と中国語の通訳・翻訳能力の証明になると言うのです。

なるほど、私たちの試験は、特に上の級になるとかなり高度な日本語や中国語の翻訳問題を課しています。単に読めるか話せるかだけではなく、深い理解力が求められます。

日本で中国語を使って仕事をする場合に求められるのは、単に書けるか話せるかだけではなく、日本語を中国語に、或いは中国語を日本語に、いかに正確に移すことができるかが問われます。

そんなわけで、中検の取得級は高く評価されるのです。

——中検1級を取得していれば「通訳案内士」の一次試験を免除されるそうですね。

一次の筆記試験のうち語学が免除されます。地理や歴史、一般常識については、当然ながら、免除の対象にはなりません。

日本政府観光局が実施しているこの試験は唯一の国家資格としての「通訳案内士」が得られるとあって人気があるようですが、中検1級は「通訳案内士」と同レベルの中国語運用能力を有していることの証明になるというわけです。

慣用語にチャレンジ

『中国語の環』編集室

2級から上、特に準1級と1級の筆記問題にはほぼ毎回、成語、慣用語、諺（ことわざ）を含む問題が出題されています。

そこで今回は第75回から第81回までの2年間の準1級の問題の中から慣用語を20語拾ってみました。例文は編集室において選んだもので、出題通りではありません。

いくつ答えられますか？

以下はおよその目安です。

全部	15語以上	10語以上
1級レベル	準1級レベル	2級レベル

- 1. 唱对台戏 chàng duìtáixì
向こうを張る。異を唱える。
跟上司唱对台戏。上司と張り合う。
- 2. 吃小灶(儿) chī xiǎozào(r)
特別料理を食べる；特別な待遇や援助を受ける。
给学习成绩差的学生吃小灶。成績のよくない生徒に特別指導をする。
- 3. 出风头 chū fēngtóu
出しゃばる。目立ちたがる。
她就是爱出风头。彼女ときたらほんとうに出しゃばりだ。
- 4. 出洋相 chū yángxiàng
ぶざまな姿をさらす。醜態を演じる。
不懂装懂出洋相。知ったかぶりをして赤恥をかく。
- 5. 吹牛皮 chuī niú pí
ほらを吹く。大ぶろしきを広げる。“吹牛”(chuīniú)とも。
他这个人爱吹牛皮。あいつときたら、ほらばかり吹いている。
- 6. 打官腔 dǎ guānqiāng
役人風な物の言い方をする；役人風を吹かす。
动不动就打官腔训斥人。ややもすれば役人風を吹かせて人を叱りつける。
- 7. 打开天窗说亮话 dǎkāi tiānchuāng shuō liàng huà
天窓を開けて隠さずに話す；包み隠さずに話す。
咱们打开天窗说亮话吧。ひとつざっくばらんに話そうではないか。
- 8. 打小算盘 dǎ xiǎosuànpan

けちな算段をする。

只会打小算盘的人。目先の損得勘定ばかりする人。

- 9. 刀子嘴，豆腐心 dāozizǔi, dòufuxīn
刀のような鋭い口と豆腐のような柔らかい心；口は悪いが心根は優しい。
人们都说她刀子嘴，豆腐心。人々はみな彼女は口は悪いが心は優しいと言う。
- 10. 喝西北风 hē xīběifēng
(食べ物がなくて) すきっ腹を抱える。霞 (かすみ) を食う。
遇到荒年，我们就得喝西北风。凶作の年になったら，霞を食うしかない。
- 11. 换汤不换药 huàn tāng bù huàn yào
(煎じ薬の) 湯を換えて薬を換えない；形式だけを変えて内容を変えない。
换汤不换药的政政策。看板だけ塗り変えたまやかしの政政策。
- 12. 开门红 kāiménhóng
幸先よいスタートを切ること。“紅”は順調であること，幸運であること。
争取来个开门红。初めから好成绩を取められるよう努力する。
- 13. 开小差 kāi xiǎochāi
(兵士が) 脱走する；ぼんやりする，頭が留守になる。
上课时，不要开小差。授業中，うわの空であってはいけなない。
- 14. 蒙在鼓里 méng zài gǔlǐ
太鼓の中に閉じこもる；蚊帳 (かや) の外に置かれる。
只有我们还都蒙在鼓里。われわれだけがまだ事の真相を知らずにいる。
- 15. 泼冷水 pō lěngshuǐ
冷や水を浴びせる。
你怎么总是给人泼冷水呢？どうしていつも人のすることに水を差すのか。
- 16. 耍大牌 shuǎ dàpái
偉そうにふるまう。スター気取りになる。“大牌”は人気のある有名人，大物。
刚出点儿名就耍大牌。少し名が売れるとすぐ大物ぶる。
- 17. 捅娄子 tǒng lóuzi
面倒を起こす。“娄子”は面倒，騒ぎ。“捅漏子” (tǒng lòuzi) とも。
我又捅娄子了。僕はまた間違いをしでかしてしまった。
- 18. 拖后腿 tuō hòutǐ
後ろ足を引っ張る；足を引っ張る，邪魔をする。“拉后腿” (lā hòutǐ) とも。
妻子从不拖他的后腿。妻はこれまで彼の邪魔をしたことがない。
- 19. 下台阶 xià táijiē
階段を下りる；窮地を逃れる，その場を取り繕う。
抓住下台阶的机会。引っ込みをつけるタイミングをつかむ。
- 20. 眼中钉，肉中刺 yǎnzhōngdīng, ròuzhōngcì
目の中の釘，肉に刺さったとげ；邪魔者，目の上のたんこぶ。
互相把对方看做眼中钉，肉中刺。互いに相手を目の敵と見なしている。

家屋・家具・寝具

『中国語の環』編集室(U)

分類語彙表の3回目である。今回は前回の「食べ物と飲み物」に続いて「家屋・家具・寝具」を取り上げる。

建物を表す名詞としては、下に掲げる“房屋”“楼房”のほかに“公寓”(gōngyù-アパート)，“公寓大厦”(gōngyù dàshà-マンション)，“单门独户”(dānmén dúhù-一戸建て)，北京の伝統家屋“四合院”(sìhéyuàn)などがある。

いくつかわかりますか？

以下はおよその目安です。

全部	40語以上	30語以上	20語以上
2級以上	3級レベル	4級レベル	準4級レベル

<input type="checkbox"/> 1. 房屋	fángwū	家屋。
<input type="checkbox"/> 2. 楼房	lóufáng	二階建て以上の建物。
<input type="checkbox"/> 3. 房子	fángzi	家，建物。(所 suǒ)
<input type="checkbox"/> 4. 屋子	wūzi	部屋。(房间 fángjiān) とも。(间 jiān)
<input type="checkbox"/> 5. 厨房	chúfáng	台所。
<input type="checkbox"/> 6. 卧室	wòshì	寝室。(卧房 wòfáng) とも。
<input type="checkbox"/> 7. 卫生间	wèishēngjiān	バス・トイレ・洗面所などのある部屋。
<input type="checkbox"/> 8. 厕所	cèsuǒ	便所，トイレ。
<input type="checkbox"/> 9. 男厕	náncè	男性用トイレ。
<input type="checkbox"/> 10. 女厕	nǚcè	女性用トイレ。
<input type="checkbox"/> 11. 浴室	yùshì	バスルーム。ふろ場。
<input type="checkbox"/> 12. 淋浴	línǚ	シャワー。
<input type="checkbox"/> 13. 盆堂	péntáng	浴槽，湯舟。
<input type="checkbox"/> 14. 门	mén	ドア，出入口，門。
<input type="checkbox"/> 15. 大门	dàmen	玄関，正門。
<input type="checkbox"/> 16. 门口	ménkǒu	戸口，玄関口。
<input type="checkbox"/> 17. 窗户	chuānghu	窓。(窗子 chuāngzi) とも。(扇 shàn)
<input type="checkbox"/> 18. 房顶	fángdǐng	屋根。(屋顶 wūdǐng) とも。
<input type="checkbox"/> 19. 房檐	fángyán	のき。
<input type="checkbox"/> 20. 天花板	tiānhuābǎn	天井，天井板。
<input type="checkbox"/> 21. 地板	dìbǎn	床，床板。
<input type="checkbox"/> 22. 柱子	zhùzi	はしら。(根 gēn)

□23. 墙	qiáng	かべ, へい。(墙壁 qiángbì) とも。
□24. 楼上	lóushàng	二階, 階上。
□25. 楼下	lóuxià	一階, 階下。
□26. 楼梯	lóutī	階段。(层 céng)(级 jí)
□27. 走廊	zǒuláng	渡り廊下。
□28. 院子	yuànzi	庭, 中庭。(座 zuò)
□29. 床	chuáng	ベッド, 寝台。(张 zhāng)(架 jià)
□30. 炕	kàng	オンドル。(铺 pū)
□31. 铺盖	pūgai	ふとん。(床 chuáng)
□32. 褥子	rùzi	敷きぶとん。(张 zhāng)
□33. 被子	bèizi	掛けぶとん。(条 tiáo)
□34. 床单	chuángdān	ベッド・シーツ。(条 tiáo)
□35. 枕头	zhěntou	枕。(个 ge)(对 duì)
□36. 枕套	zhěntào	枕の外袋, 枕カバー。
□37. 枕巾	zhěnjīn	枕カバー。(条 tiáo)(块 kuài)
□38. 柜子	guizi	たんす, 長持ち。
□39. 衣柜	yīguì	たんす, 衣裳箱。
□40. 箱子	xiāngzi	大型の箱, トランク。(口 kǒu)
□41. 皮箱	píxiāng	トランク。(只 zhī)
□42. 盒子	hézi	小型の箱。(只 zhī)
□43. 桌子	zhuōzi	机, テーブル。(张 zhāng)
□44. 书桌	shūzhuō	読書机, 文机。
□45. 饭桌	fànzhuō	食卓。
□46. 茶几	cháji	(茶器を載せる) 小テーブル。
□47. 椅子	yǐzi	いす。(把 bǎ)
□48. 躺椅	tǎngyǐ	寝椅子。(张 zhāng)
□49. 凳子	dèngzi	こしかけ。(张 zhāng)
□50. 沙发	shāfā	ソファ。(只 zhī)(套 tà)
□51. 抽屉	chōuti	引出し。
□52. 帘	lián	カーテン, すだれ。(挂 guà)
□53. 门帘	ménlián	(入口に掛ける) カーテンの類。
□54. 窗帘	chuānglián	窓用カーテン。
□55. 毯子	tǎnzi	毛布, じゅうたん, 壁掛けの類。
□56. 地毯	dìtǎn	じゅうたん。(张 zhāng)(块 kuài)
□57. 电灯	diàndēng	電灯。(盏 zhǎn)
□58. 日光灯	rìguāngdēng	蛍光灯。(荧光灯 yíngguāngdēng) とも。
□59. 自来水	zìláishuǐ	水道。
□60. 空调	kōngtiáo	エアコン。(台 tái)

絵で見る慣用語 (1)

絵・張恢

文・『中国語の環』編集室



矮半截儿 ǎi bànjié

半分の背丈しかない；身分や地位、能力などについて人よりも格段に劣ることをいう。“矮一头”“矮三分”とも。比別人～。他人より劣る。



碍面子 ài miànzi

人の顔を立てる；情にほだされる，情に引かれる。
有意见就提，别～不说。意見があるなら言いなさい，人の顔色を気にしていないで。



八字没一撇 bā zì méi yī piě

「八」の字の最初の一画「ノ」もまだ書いていない；物事の目鼻がまだついていない。まだ海の物とも山の物ともわからない。



摆龙门阵 bǎi lóngménzhèn

とりとめもなくおしゃべりする；世間話をする。よもやま話をする。また、物語をする意にも。もと四川方言。



摆门面 bǎi ménmian

入り口をはでに飾り立てる；うわべを飾る。体裁ぶる。見えを張る。不要～。体裁ぶるな。“摆谱儿”(bǎipǔr)とも。



摆摊子 bǎi tānzi

(道端に)露店を出す；見えを張りはでにふるまう。大げさにやる。誇張する。不要～，追求形式。見掛けばかり気にして，見えを張るな。



帮倒忙 bāng dào máng

(よかれと思ってしたことが) かえって迷惑をかける; ありがた迷惑になる。
你净给我～。君は余計なことばかりしてくれる。



背黑锅 bēi hēiguō

黒い鍋を背負う; 他人の罪をひっかぶる。ぬれぎぬを着せられる。
他总是让我替他～。彼はいつも自分の罪を僕になすりつける。



不管三七二十一 bùguǎn sān qī èrshíyī

三七が二十一であることなど構わない; 何が何であろうと。委細構わず。がむしゃらに。
～乱说了一阵。お構いなしにひとしきり騒ぎ立てた。



背包袱 bēi bāofu

重いふろしき包みを背負う; 重荷をしょいこむ。思想や行動, 経済上の負担について用いる。

背着沉重的包袱。重い負担を背負っている。



避风头 bì fēngtōu

強い風当りを避ける; 不利な状況を回避する。身を隠す。身をかわす。
躲开批判到乡下去～。批判をかわすために田舎に身を隠す。



不买账 bù mǎizhàng

(人の長所や能力などを) 買わない, 認めない, 評価しない。
谁也不买你的账。誰もおまえのことなど認めない。

“想”と“要”

日本中国語検定協会評議員・文京学院大学 魯 晁珉

ここで取り上げるのは動作主の意志を表す助動詞の“想”と“要”です。助動詞としての“要”は他にもいくつかの意味がありますが、ここでは触れません。

中国への留学を希望する人がその意志を表そうとする時、

(1)我想去中国留学。/私は中国へ留学に行きたいです。

(2)我要去中国留学。/私は中国へ留学に行こうと思います。

のように“想”を使っても“要”を使っても意味はほとんど変わりません。しかし、(3)(4)の場面では、“想”と“要”を互換することはできません。

(3)老师，我想（*要）请您给我写一封推荐信。

（先生、私の推薦書を書いていただきたいのですが。）

(4)你别走，我有话要（*想）跟你说。

（ちょっと待て、君に話があるから。）

例(3)の“想”を“要”にすると、強要するニュアンスを帯び、先生に失礼な表現となり、(4)の“要”を“想”にすると、文脈の強硬な語気に合わなくなり、違和感が生じます。このようなことは“想”と“要”の意味における相違から生じたものです。“想”と“要”の意味上の違いを解明するために、互換できない用例から考えましょう。

(5)我想（*要）帮她的忙，可是我无能为力。

（彼女を助けたいが、力に余ります。）

(6)我的心太乱，想（*要）哭也哭不出来。

（私の心はあまりにも乱れていて、泣きたくても泣けません。）

(7)人人都想（*要）发财。

（人々はだれでもお金持ちになりたい。）

例(5)~(7)には、動作主の意志が明らかに願望にとどまり、行動または実現する可能性がないという共通点があります。このような場合、“想”しか用いることができず、“要”は使えません。“想”はただの思いでもよく、静的な心理状態を表すため、程度副詞“特别”“非常”“很”“真”“太”などの修飾を受けられますが、“要”は受けられません。反対に次の場合は“要”しか用いることができません。

まず、“要”の前に“一定”“执意”“非”“硬”“偏”“就”“决心”“坚决”“竭力”“无论如何”“说什么也”などの修飾語があれば、“要”を“想”に置き換えることができません。それはこれらの修飾語によって、動作主の意志が強化され、動作主が必ず意志を実現しようという決心を示しているからです。

(8)这次一定要（*想）找他好好谈谈，让他改邪归正。

（今度こそ彼としっかり話し、悔い改めるようにさせるつもりです。）

(9)小彬本来可以去当兵，可他却偏要（*想）去插队。

（小彬は軍隊に入ることもできたが、ところが彼はどうしても農村へ行くと言い張った。）

(10)她不顾一切地要收养这孩子。

（彼女はためらうことなく、その子を引き取ることを申し出ている。）

また、すでに行動で意志を示した場合も“要”しか用いることができません。

(11)他跟我聊了一会儿，起身告辞要（*想）走。

（彼は私とちょっとお喋りし、立ちあがって帰ろうとした。）

(12)孩子哭着喊着要（*想）找妈妈。

（子どもは泣きわめいてお母さんをお母さんと呼んでいる。）

例(11)では、“起身告辞”で「帰ろう」という意志を、(12)では、“哭着喊着”で「お母さんに会いたい」という意志を示しています。

以上の考察から動作主の願望にとどまり、実現する可能性がない意志は“想”でしか表せず、一方動作主の必ず実現しようという意志やすでに行動で示した意志は“要”でしか表せないことが分かりました。そして上記のいずれかに当たらない場合は“想”も“要”も用いることができます。例(1)(2)はこのような場合です。

但し、両方とも使える場合でも“想”より“要”は意志が強いということが明らかです。そのため、人との関係が生じる場合、どちらを選ぶのが問題になります。

(13) a 星期天我想（*要）去拜访您，您有时间吗？

（日曜日に私はちょっと伺いたいですが、ご都合はいかがでしょうか。）

b 星期天我要（想）去你那儿，可以吗？

（日曜日に私は君のところに行きたいけど、いい？）

(14) a 我想（*要）求您办点事儿。

（ちょっとお願いしたいことがあります。）

b 我要（想）让你办点事儿。

（ちょっとやってもらいたいことがある。）

例(13)(14)の a では“拜访您”または“求您”の文脈から分かる通り、頼む相手に遠慮しなければならないため、意志を強く示してはいけません。この場合、“想”のほうがよく、“要”は相手に失礼なニュアンスとなります。b では“去你那儿”または“让你”の文脈から分かる通り、頼む相手に遠慮する必要はないため、“想”でも構いませんが、意志を強く示すには“要”がより適切です。一方、動作主の意志を無理に押し通そうという場面では、“要”しか用いることができません。例(4)はこのような表現です。もう一例をあげると、

(15)我要（*想）让他看看我的厉害。

（彼に目にもの見せてやろう。）

なお、“想”よりも“要”のほうが意志が強いということにより、“要”の否定形は“不要”ではなく、“不想”を用います。弱い意志が否定されると、いうまでもなく強い意志も否定されるわけです。

どこがおかしい？なぜおかしい？

——「日文中訳添削講座」から (22)

(90) 初めの数頁を読んだだけで、その小説の世界に引き込まれた。

“只……，就……”（…しさえすれば，…する）を用いて連続関係を表す複文を作ります。後半の「引き込まれた」という表現は、二つの訳し方があります。一つは、引き込んだ動作主を文の意味から汲み取り、「…に引き込まれた」と受身式に訳す方法です。ここでは「小説の中に書かれている世界」に引き込まれたと理解できるわけですから、“被这本小说所描写的世界……”となります。そしてもう一つは、文の表現に従い、「引き込まれた」場所を表す結果補語“到”を使って、“吸引到小说的世界里”（小説の世界まで引き込まれた）とする方法です。なお、「小説の世界」を単に“小说的世界”と訳した回答がありましたが、場所詞として表すには、“小说的世界里”としなければ文法的に誤りです。

《参考訳文》 只看了开头的几页，就被这本小说所描写的世界迷（吸引）住了。
只看了刚开始的几页，就被吸引到小说的世界里去了。

(91) お金さえあれば何でも買えるというわけではない。

まず文の全体を考えます。「…ではない」という否定形ですから、“不是……”を使い、「お金があれば何でも買える」という文を否定する形にします。更に「…というわけではない」というニュアンスは、“并”を添えて“并不是……”と表します。

次に、「…さえあれば…である」という表現は、ここでは必要条件（必要最小限）のことを言っているなので、“只要……，就……”という呼応表現を使いましょう。この“就”は「つまり、すなわち」と結論を導く意味を持ちます。「何でも」は“什么都……”という強調表現を用います。「買える」「買うことができる」は、可能を表す助動詞“能”を使い“能买”とします。或いは、可能補語を使って“买得了”“买得到”とすることもできます。

《参考訳文》 并不是只要有钱就什么都能买。
并不是只要有钱，就什么东西都买得了（到）。

(92) 修理するにせよ、新品を買うにせよ、相当な出費を覚悟しなければならない。

“不论（不管/无论）……，都……”（…にかかわらず）を使った条件関係を表す複文は、皆さんほぼ使いこなせていたようです。

「新品」は単純に“新的”で構いません。これを“新货”“新东西”などとかなり苦労して訳した回答もありましたが、あえて言いますと“新货”は特定の品物を指す意味になります。“新东西”ですと物以外、例えば「新しい概念」のような抽象的なものも含むたいへん広い意味にとられます。

次に「相当な出費」ですが、「たくさんのお金を使う」と表すのが最も簡単な訳し方です。つまり“花一大笔钱”となりますが、この“笔”は量詞です。金額を言わずに一定のお金を表現する時には“一笔钱”と言います。「たくさん」という意味を加えると“一大笔钱”となるわけです。直訳の“很多钱”でもよいでしょう。「覚悟する」のように、同じ漢字を使っても日本語と中国語で意味の異なる語は注意が必要です。「(ある状態になること、ある事が起きることを予測して)受け止める心構えをすること」ですので、中国語では“做好思想(精神/心理)准备”となります。この表現にたどり着くことができず、“决心”或いは“下决心”を使った回答が比較的多く見られました。これは「決断を下す」ですから、上に述べたような「覚悟する」の意味とは異なります。“做好……的思想准备”という表現が最も適当でしょう。ここでの“思想”は「心づもり」の意味です。

《参考訳文》 不论是修理还是买新的，都得做好花一大笔钱的思想准备。
不管是修理还是买新的，都得做好花很多钱的精神准备。

(93) 日本では「訛は国の手形」と昔から言われているのであるから、もっと方言を恥ずかしがらずに話すべきである。日本の方言軽視は日本人の集団意識の希薄化につながっていると思われる。

「訛は国の手形」という慣用句は決まった中訳がありませんので、意味が合っていれば添削はしませんでした。「訛」は“乡音”“口音”，ここでの「国」は“家乡”“老家”“出生地”などとするとよいでしょう。「手形」については“手印”“票据”のような訳語を使っても中国人には解りません。「…と昔から言われている」は“自古以来被说……”と直訳するのではなく，“自古以来就有……的说法”のように表しましょう。「もっと方言を話す」も“更说方言”と直訳せず，“多说方言”または“更积极地使用方言”のように中国語の表現習慣に従って訳しましょう。

「集団意識」を“集团意识”とした直訳はわからなくもないですが、厳密に言えば“团体意识”または“集体意识”とした方が中国語らしいです。「希薄化」も難しいですね。“稀薄”という中国語は確かにありますが，“空气稀薄”のように空気や霧などが薄いことを言う場合に用いる語で、本題のような「意識」について言う場合は用いられません。また，“稀薄化”という表現は中国語にはありません。“淡化”なら通じますが、ここでは「…に乏しい」という意味ですから“缺乏……”とした方がふさわしいのではないかと思います。「…につながっている」は“导致……”“引起……”“与……有关”のいずれかを用いるとよいでしょう。

《参考訳文》 ①在日本自古就有“听口音可知是哪里的人”的说法。所以我们说家乡话不应该有顾虑。日本蔑视方言实际上跟日本人缺乏团体意识有关。
②日本有句古语说：“口音表故乡。”所以，大家说方言不应该感到害臊。轻视日本的方言，有损于日本人的集体主义精神。

(文責：高部千春)

現代版“土豪”とは？

日本中国語検定協会評議員・共立女子大学 李錚強

中国は2006年から毎年の年末にその年の世相を表す漢字を選び、公表する“汉字盘点”というキャンペーンを行っている。昨年の暮れに国家言語資源観測研究センター・商務印書館・北京語言大学が共同で主催した“汉字盘点2013”の選考結果が北京で発表され、“房”（家屋）と“正能量”（ポジティブエネルギー）がそれぞれ2013年度の国内漢字と国際漢字に選ばれた。また、当選考では「今年の流行語ベスト10」「今年の新語ベスト10」「今年のインターネット用語ベスト10」も同時に発表された。この「今年の流行語」「今年の新語」「今年のネット用語」という3項目のいずれにもランキング入りした唯一の語に“土豪tūháo”という語があり、興味深い。

“土豪”の“土”は「土臭い」「ださい」，“豪”は「豪華」「威張っている」という意味で、地方の豪族という意味の既存の語であった。特に“土豪劣紳”のように、むかし官僚や軍閥と結んで農民を搾取した大地主または資産家の蔑称としてよく用いられていたが、社会主義中国になってからは当然ながら死語同然に扱われていた。しかし、改革開放を実施してからわずか30数年で驚異的な経済成長を遂げるに伴い、草の根から成金になった“暴发户”も最近みるみるうちに増えている。そんな中で学歴がなく、行動パターンが野暮たく、成金風を吹かせる連中が社会的に注目されるようになった。このようなモラルに欠けている新時代の金持ちを、2013年初めてネット上で既存の語“土豪”を用いて揶揄したのである。

当然、この“土豪”は特に経済成長から取り残されている貧困層の人々が、富裕層を目の敵にして恨んでいるというニュアンスを含む呼称で、成金が続々と出てくる田舎を“土豪村”または“土豪县”と揶揄する。

とは言え、かつての毛沢東時代における金持ちはすべて悪という認識とは異なり、若者の間では意外と“土豪”を羨むという社会風潮さえ見られる。“土豪，我们可以做朋友吗？”（土豪様、友達になってくれませんか。）はネット上で愛用フレーズとして用いられる。また、拝金主義の風潮の中、特にビジネス業界ではこの新時代の成金とうまく付き合おうとする意識が強い。例えば、昨年9月に世界で同時発売されたアメリカアップル社のスマートフォン「iPhone 5s」のゴールドモデルが中国で“土豪金”（成金が好む金色）と名付けられたことで高価な人気商品となった。その後、ハイテク機器や一般家電、さらに建築物の外装まで金色を塗る傾向が広がっている。

既存の語“土豪”に新たな語義を与えてこれだけ急速に流行したことは、新時代における成金という新しい階層が中国に蔓延していることを窺わせると同時に、格差の拡大から生じてきた社会問題の深刻さをも映し出していると思われる。

『中国語の環』合冊本Ⅲ刊行に当たって

『中国語の環』編集室

『中国語の環』は、日本中国語検定協会が実施する中国語検定試験に関する情報や中国語学習のノウハウを広く受験者や学習者に提供することを目的にして、1987年に創刊され、今年1月までに95号が刊行されています。第62号までは会員購読制であったが、より多くの学習者の手に渡ることを願って、第63号からは各回の試験ごとに配布される「受験案内」に別刷りの小冊子として綴じ込むことにし、今日に至っています。

ただ小さな冊子であるため散逸してしまったり、新しい学習者が古い号を読みたいと思っても手に入れるすべがないという不便さを訴える声は、早くから寄せられていましたし、わたくしたち自身もそのことに気づいていました。

そこで先に創刊号から第62号までの主要な記事を選んで『総集編』として刊行（Ⅰ－2003年4月、Ⅱ－2003年9月）、続いて第63号から第71号までの全冊を合冊本として2006年4月に、同じく第72号から第83号までを合冊本Ⅱとして2010年6月に刊行して、いずれも好評をもって迎えられました。（既刊『総集編』『合冊本』の入手方法については「受験案内」の最後のページをご覧ください。）

今回、合冊本Ⅲとして刊行するのは、その後の第84号から第95号まで、すなわち2010年から2014年までの4年度分です。各号の紙幅の都合上、短かな文章ばかりですが、どの一篇も学習者にとって今なお有益な内容のものばかりであると、固く信じています。

わたくしたちの協会は、今年、設立33年目を迎えます。1981年秋、大阪で第1回の試験を実施した時は、受験者は全級合わせてわずか60名でした。今は年間の受験者総数は6万人を超え、学習者はもちろん、中国語教育に携わる多くの関係者からも、信頼するに足る検定試験として支持と賛同を得るに至っています。ありがたいことですが、喜んでばかりいられません。この信頼に背くことのないよう、いっそう公正で信頼性の高い検定試験の実施を目指して、協会関係者一同、努力を重ねてまいります。

わたくしたちの仕事が日本における中国語教育の普及と学習者の学力の向上に貢献できることを願って、この願いを達成するうえにおいて、今回の合冊本がささやかながらお役に立てることを心から願っています。

お知らせ

『中国語の環』合冊本Ⅲは2014年4月刊行予定です。入手方法についての詳細は4月以降に協会ホームページなどでお知らせします。

